

バリアフリー住宅の基準

平成7年、建設省が「長寿社会対応住宅設計指針」を策定しました。

住宅金融公庫ではそれに基づき、良質な住宅ストック形成促進のため、平成8年10月より良質な住宅として175㎡以下の「バリアフリータイプおよび耐久性タイプ」または「省エネルギータイプおよび耐久性タイプ」の基準を満たす住宅に対し、基準金利融資の適用対象として運用しています。

その中でバリアフリータイプの住宅は、これから迎える高齢化社会に備え、段差の解消や手すりの設置など人にやさしい、安心して暮らせる住宅です。また年金福祉事業団も将来の住宅ケアに対応可能な仕様に配慮した住宅に対し「年金バリアフリー住宅融資」制度を新設しました。

■融資制度

- 住宅金融公庫「基準金利」が適用される「バリアフリータイプおよび耐久性タイプ」の住宅

技術基準、公庫仕様書等
バリアフリータイプおよび耐久性タイプの基準を満たすこと

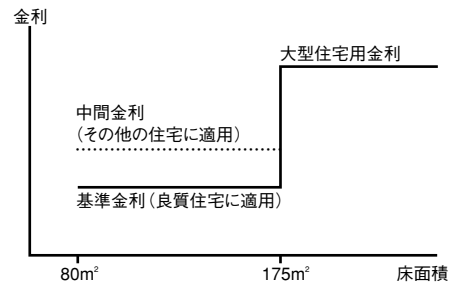
- 住宅金融公庫「長寿社会対応住宅工事割増融資」制度

「バリアフリータイプの基準」を満たすことによって150万円融資

- 年金福祉事業団「年金バリアフリー住宅融資」制度

年金バリアフリー住宅の融資基準を満たすことによって貸付限度額の増額

金融公庫金利体系のイメージ



■バリアフリー適合商品 (玄関引戸)

商品名	仕様 (バリアフリー)			住宅金融公庫 「バリアフリー住宅」	建設省「長寿社会 対応住宅設計指針」	年金 「バリアフリー住宅」
	有効幅mm	段差mm	把手・引手/戸の形式			
断熱玄関引戸 PGシリーズ (エルミナPG・一番町PG ・光悦PG・花伝PG・やまとPG)	2枚建戸	W60	678	8	仕様を 融資の条件とは していません	—
		W66	767			●
	4枚建戸	W90	992.3	8		●
		W120	1447.3			●

■バリアフリー基準 (抜粋)

空間	部位	長寿社会対応住宅設計指針※	年金
玄関	開口幅(有効幅)	750mm以上 (推奨は親子ドアとし親扉は800mm以上)	750mm以上 (推奨は850mm以上)
	ポーチ～ドア枠段差	20mm以下(推奨は段差なし) 「段差なし」とは段差3mm以下のことをいう	20mm以下(推奨は段差なし) 「段差なし」とは段差3mm以下のことをいう
	ドア下枠～土間の段差	5mm以下	5mm以下
	建具の把手	—	レバーハンドル、引手、把手、握り棒等とする

※住宅金融公庫の「バリアフリータイプ」については玄関ドアの仕様を融資の条件とはしていません。

●基準については抜粋です。詳細についてはそれぞれの融資窓口、または仕様書にてご確認ください。